明治大学大学院教養デザイン研究科　特別講義

知は誰のものか
知と学問の体制変換

「アカデミック・キャピタリズム的な知と学問の体制」の進展によって大学における研究教育がどのように変化しつつあるか、アメリカの事例を参照しながら考えます。
参考図書：『アカデミック・キャピタリズムとニュー・エコノミー　市場、国家、高等教育』
S.スローター、G.ローズ共著（成定薫監訳）法政大学出版局、2012年。

日時　：　10月4日（金）　17:00～18:30

会場　：　和泉キャンパス第一校舎　203教室

講師　：　成定（ナリサダ）　薫（カオル）先生　広島大学名誉教授

講師プロフィール：　広島大学総合科学部で長年「科学史」を担当し、科学の歴史を大学という制度との関連で考えてきました。
主要著訳書：『科学と社会のインターフェイス』平凡社、1994年、『グラウンド・ゼロを書く　日本文学と原爆』J.W.トリート著（成定薫他監訳）法政大学出版局、2010年など。

1989年、東西冷戦終結。1990年代初頭、新しい時代の到来に対する希望が、世界に満ちていました。実際、情報通信技術の発達とあいまって、経済と社会のグローバル化が急速に進展しました。しかし、冷戦後の世界が歩んできた道は「バラ色の未来」とはほど遠いものでした。

2013年現在、世界の構造は、再び激変の入口に立っています。未来はどうなるのか。大学の研究教育のあり方は、どう変貌するか。

本講義では「アカデミック・キャピタリズム（大学資本主義）」という切り口から、アメリカの事例を参照しつつ大学の変化の現状を考察します。本講義が、我が国の大学が未来に向かってどのような道を歩むべきかを考えるヒントになればと願っています。

コーディネーター：加藤徹　法学部教授

予約不要：学部生の受講可
学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。
教養デザイン研究科　TEL：03-5300-1529